

文学は常に具体的

——「国民文学」に望む——

宮本百合子

青空文庫

生活的な真実というもののあらわれは、非常に多種多様だと思
う。

国民文学が単一に民族伝説（サガ）だけを自身の内容とするの
でないことは明らかなわけだから、生活が年々に経てゆく現実の
諸相から諸種の文学が生み出されて、そのものの文学としての真
実で、国民の所有する文学の宝庫をゆたかにして行つて自然だろ
うと思える。

文学というものの興味つきない胎内では、民族がある時期に遭
遇している特殊な歴史の相貌や要望やらというものを、それなり
で結論とはしていない。「イリヤード」や「オデッセイ」にしろ、

経験された事象が、その経験された時間と空間との中から、もつと雄大な歴史的時間の感覚のなかに放たれて、そこでうたわれ、描き出されているために、その芸術性の故に、普遍性をもっている。

芸術の永遠性ということをいわれるとすれば、それは自己肯定の狹隘を破つて、経験された事象が前後につづいて動いている彪大な歴史の上に照らし出され、しかも内容の一つ一つが具体的なそのときの真実にみたまされている場合である。

日本の精神が雄壮であるということは、あらゆる人々によつて承認されている。雄壮という資質は腕力的ということでないのは知れきったことであるし、真の雄壮は、感傷的な自己陶醉を最も

厭い嫌って、眞実を愛そうとする天質であることも、言を俟^またないであろう。

国民の文学という場合、自身の雄壯を自身の耳に向つてうたう感懷に立つたロマンティシズムのほかに、国民の日々の生活が刻んでゐる像を、あらゆる眞実の姿でうけいれ、創り出してゆく旺んな創造力の発動にたえるだけに、日本の雄壯な精神も成熟して来ていい頃であらうと思う。

文学は具体的にしかありやうのないものである。人間というものが土台からそう出来ている。従つて国民のもつ文学、国民の愛する文学も、つづまるところは、個々それぞれの作品であり、個々のそれぞれの作品はとりも直さず日本の農村の生活が生きる姿

で描き出されている制作であるし、いろいろの職場で働いている人々、或いは働く職場の失われた人々の物語でさえも、万民の生き経る波瀾への共通な愛から評価されていいものである。

ものごとの実体が一つのものから他のものへと転化してゆく瞬間は、何という機微だろう。

私たちは笑いの功德を十分知っている。それだからといって、もし始終笑うことしか知らない人を見たら、誰しもそれを正常な心理の人として見ることは不可能であろう。

文学精神の明るさというものは、現象に目を奪われて、ものごとの一面に明るさを、他面に暗さを単純な対比として感じとる範囲でいわれるべきではないであろう。もっと、事象を歴史の上に

射透す精神の光波をさすべきであろう。明暗をひつくるめてその関係の生きて動きつつあるそのものを、よりひろいより大きい時間と空間との中に再現したとき、人間は常に進歩を欲しているものだがまた常にそれは矛盾におかれている、その生々しい人間眞実の悲喜をうつしたとき、文学精神の明るさも、いうに甲斐ある透つた明るさとなつて爽やかに輝くわけだろう。

文学の明るさをいうとき、私たちは、そこいらの高さまでを念願して、それが自然なのであらうと思う。〔一九四一年四月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十二卷」新日本出版社

1980（昭和55）年4月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第4刷発行

親本：「宮本百合子全集 第七卷」河出書房

1951（昭和26）年7月発行

初出：「報知新聞」

1941（昭和16）年4月24日号

入力：柴田卓治

校正：松永正敏

2003年2月13日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

文学は常に具体的

——「国民文学」に望む——

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 宮本百合子

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>